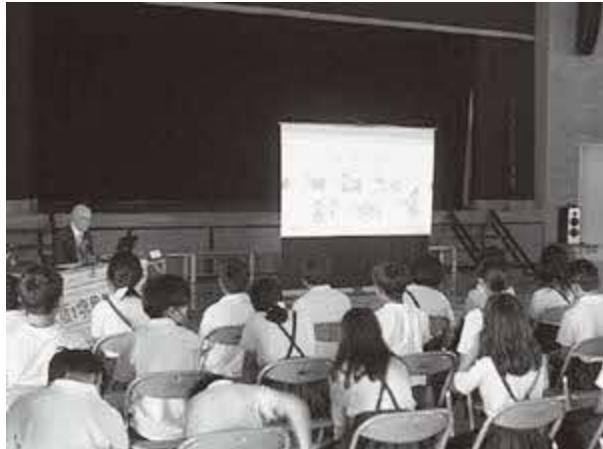


みんなで育てる「たいしの子」vol.9

幼小中一貫教育だより

令和5年度の町立山田小学校の取り組み 出会い・体験を通して非認知能力の向上をめざす



町立山田小学校では、この1学期、様々な出会い・体験をもとに非認知能力向上の取り組みを進めてきました。

7月11日(火)に大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館からミヒャエル・イエーレ首席領事が来校され、5・6年生児童を対象に、ドイツの魅力について講演頂きました。領事がドイツ語でドイツの紹介をし、通訳の方が訳してくれました。子どもたちは、興味津々で話を聞いていました。

講演後、領事と交流する時間があり、子どもたちは2つの準備をしていました。1つ目は、領事にドイツ語で直接質問することでした。自分たちの聞きたいことをドイツ語で何と言うか調べ、発音の仕方を練習してきました。当日、子どもたちのドイツ語が領事に通じ、領事もドイツ語で回答してくださいました。子どもたちは驚きながらも、とても嬉しそうにしていたのが印象的でした。2つ目は、全員がドイツ語でメッセージカードを作成し、代表者が領事に手渡すことでした。領事が喜ぶ姿を想像しながら、一人ひとりが思いを込めてカードを作成しました。ドイツ国旗をデザインしたシートにカードを貼って渡すと、領事は嬉しそうにほほ笑んでおられました。

準備してきたドイツ語で一生懸命に伝えようとする本校の子どもたち、その思いを受けてくださる領事。それぞれの「思い」が交差する貴重な時間となりました。今回の取り組みをとおして、未習の言語を使ってコミュニケーションをとろうとした子どもたちに、非認知能力の「挑む力」・「伝える力」・「受け入れる力」が育まれていることを期待しています。



教えて!とくどめ先生!

テーマ 「見とりの次にすること」

前号では子どもたちが何らかの目標に向かうプロセスの中にこそ、子どもたちが非認知能力を発揮した素敵な姿や行動がたくさんあって、それを見とることが子どもの意識づけの第一歩というお話をしました。

今号では、見とり、価値づけた次にすることをお話しします。これまで、子どものプロセスから見取り、価値づけをしていく重要性を述べてきましたが、価値づけて終わりかというとそうではありません。それを子どもたちに伝えてあげる、フィードバックが大切になります。

見とるだけで終わるのではなくて、見とったうえでフィードバックして、そこから価値の共有をしていく必要があります。ただし、この場合の価値の共有には「伸ばしてほしい価値」だけではなく、「伸ばしてほしくない価値」もあるということを忘れてはいけません。前者は、ほめるという行為で「行動強化」していきます。後者については、「叱る」という行為で「行動弱化」へとつなげていくことが大切です。どちらにせよ、ほめるという行動強化も、叱るという行動弱化も、価値のある(ない)こととして共有しているということです。そのためにも、子どもの姿や行動を見とる中で、フィードバックして価値の共有をすることがとても大切になります。

教えてとくどめ先生のコーナー 次回は、「フィードバックのポイント」です。お楽しみに!

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533